

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ

世界の窓



世界の国々や文化を紹介する「ワールズ・ウィンドウ」！ 案内役は、国際交流員リサアン・カワチさんとエイミー・タッペンデンさんです。

Vol.94 カナダ ブッチャートガーデン

Hello! みなさん、こんにちはリサアンです。もうすぐ春ですね。植物が芽吹き、花々が咲く春は北国に住むわたしたち（フードリバーも北国です）にとって本当に待ちどろしい季節です。そこで今回は、わたしの国の隣、カナダにある世界的に有名な庭園をご紹介します。わたしも以前行ったことがあります、整備された庭園の中に咲く可憐な花たちに何度も足を止め見入っていました。

カナダ・バンクーバー島のビクトリア市にあるブッチャートガーデンは、世界的に有名な庭園です。敷地は222,574㎡（約6万7千坪）にも及び、花、そして植物や木々で埋め尽くされ、その豪華な色や配列によって植物の多様性を生み出しています。来園者は自分のペースで園内を散策し、自分の好きな所で立ち止まりその景色を楽しむことができます。庭園は3月から10月の間は常に花々が咲いている状態を保つため、毎年700種類以上、100万本以上の植物がいたる所に植えられています。

ブッチャートガーデンは毎年100万人以上の来園者を受け入れ、さらにはカナダの国家史跡に指定されました。一年を通して開園しているので、土地の気象条件を考慮して特別な設計で作られており、自らのかんがい設備で庭園に水を引くことによって夏の水不足などに対処しています。庭園の管理は50人の庭師によって、庭と敷地、そして庭園内にある温室も同様に手入れされています。温室では、季節を気にせず刺激的な色で溢れた花々を見ることができそうです。

もし花々が咲いていなかったとしても、庭園内にはバンクーバー島で唯一のメリーゴーランドがあるので、それを楽しむことができます。ローズ・メリーゴーランドと子どものパビリオンが2009年に開園して、子どもと大人の両方を引き付けています。そこにあるメリーゴーランドは、熊、馬、ダチョウ、シマウマなど30種類の彫刻で作られており、有名なメリーゴーランド美術の彫刻家によって彫られた美術品にもなっています。それらはシナノキから彫られ、1体が完成するまで何ヶ月もかかるそうです。また、庭園には季節のアトラクションもあり、夏と冬のホリデーシーズンには地元の多種多様な音楽が演奏され、夏には夜の花火、冬の間は園内のアイススケートリンク沿いをライトアップして、季節の装飾品が庭園を飾ります。

ブッチャートガーデンはブッチャート夫妻（ロバートとジェニー）によって造成されました。1888年に2人は製造し始めたセメント製品に必要な石灰石の採石場を求め、カナダの西海岸にやって来ました。そして1904年バンクーバー島の採石場の近くに家を建てました。ロバートが採石場の石灰石を掘り尽くした時に、ジェニーは荒涼とした採石場を何か美しいものに変えようと決めました。彼女は馬やカートで近隣の農地から庭園に適した土を運び、閉鎖した採石場の土地に敷き詰めました。ジェニーの指導の下、採石場は素晴らしい「サンケンガーデン」になっていきました。彼らは家と庭をBenvenuto（ベンベヌート：イタリア語で歓迎さ

れる）と名付け、敷地に観光客を受け入れ始めました。毎年大勢の観光客が庭園に訪れたので、庭園は拡大し続けました。そして2人は1908年まで世界旅行をしながら、彼らの家の海側に日本庭園を造りました。ジェニーが横浜出身の岸田伊三郎（当時65歳）という当時ビクトリア市で人気の日本庭園を手がけたガーデナーデザイナー（庭師）に依頼をして造成しました。ブッチャートガーデンの拡大は続き、1926年にはテニ



△庭園内にあるチョウザメの噴水

スコートをイタリアンガーデンに、1929年には自家用の野菜畑を大きなバラ園に変えました。そこにはブッチャート家族が数年掛けて旅行を通じて手に入れたいくつかの噴水があります。その中には観光客が招福のために鼻をこするイノシシの噴水や三匹のチョウザメの噴水があり、どちらもイタリアのフィレンツェの物です。ジェニーの注意深い管理の下、庭園は成長し花のコレクションたちは咲き誇りました。彼女の情熱が植物に向けられていた一方で、ロバートの情熱は鳥たちに向けられていました。ロバートは世界中から観賞用の鳥を集め、家の中ではオウムを、池にはアヒルを、そして正面の芝生ではクジャクを飼いました。彼はいくつかの手の込んだ鳥小屋を建て、敷地内でハトを訓練しました。ジェニーとロバートの二人は、彼らの孫であるイアン・ロスが21歳の誕生日の時にその庭園を譲り、1939年までその庭園を守り続けました。ロスは79歳で亡くなる時まで、庭園の運営と普及促進に携わっていました。彼が亡くなってからもブッチャートガーデンは、ブッチャート家の指導と管理の下に成り立っています。そして2001年以降の所有者と経営者は、ひ孫のロビン・リー・クラークになっています。

ブッチャートガーデンにはブッチャートファミリーの「園芸」と「もてなし」に対する献身さが今日まで続いています。庭園は、一年中咲き誇る植物を鑑賞できるため、国際的な評判を確立して世界中から観光客を呼び込んでいます。また、1982年にはアメリカフロリダ州オーランドにあるエブコットセンターに開設したカナダのパビリオンの着想として、今なおカナダを代表する景観になっています。

